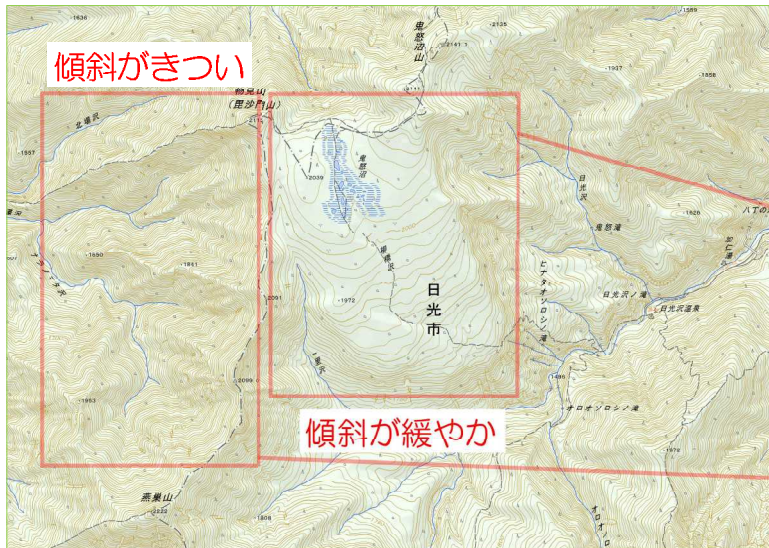
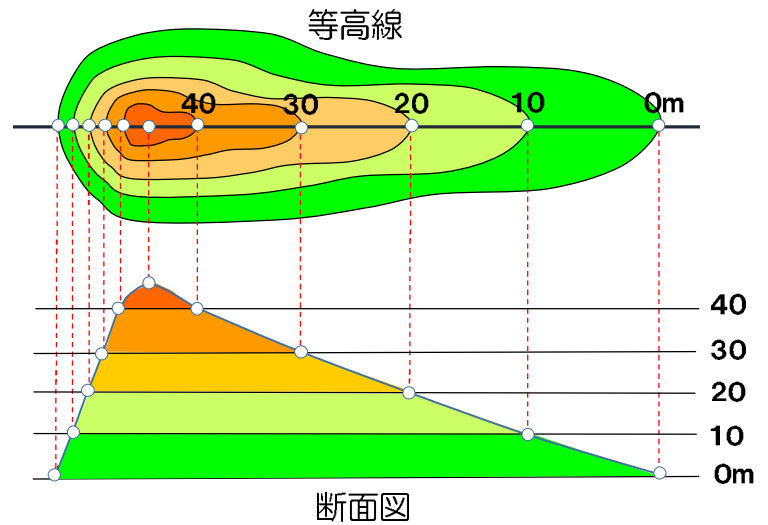


基礎からわかる2万5千分1地形図(3)

○等高線から地形を読む

1本の等高線は途中で途切れることはなく、必ず閉合します。
(崖記号や岩記号などで非表示にしている場合があります)

等高線の^{かん かく}間隔が狭いところは
傾斜がきつく、間隔が広いところは
傾斜が緩やかです。



等高線からその土地の形状を読み取ることができます。

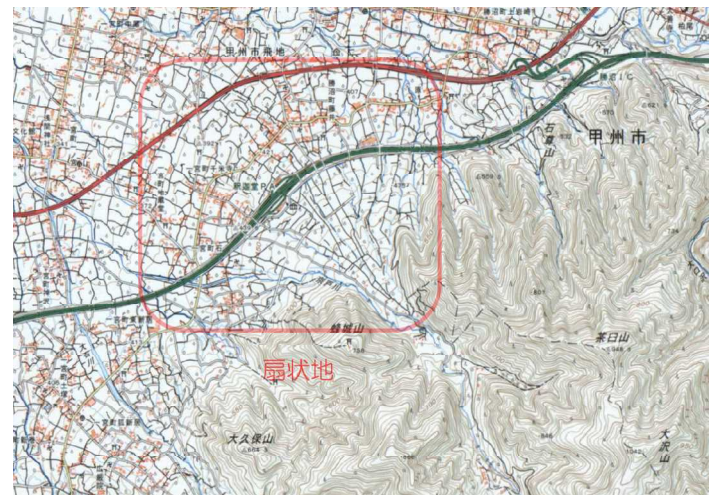


(地理院地図3D)

等高線から、急峻な山であるか、なだらかな高原であるかが分かります。
また、その土地の成り立ちを知ることも可能です。



火山の活動による地形

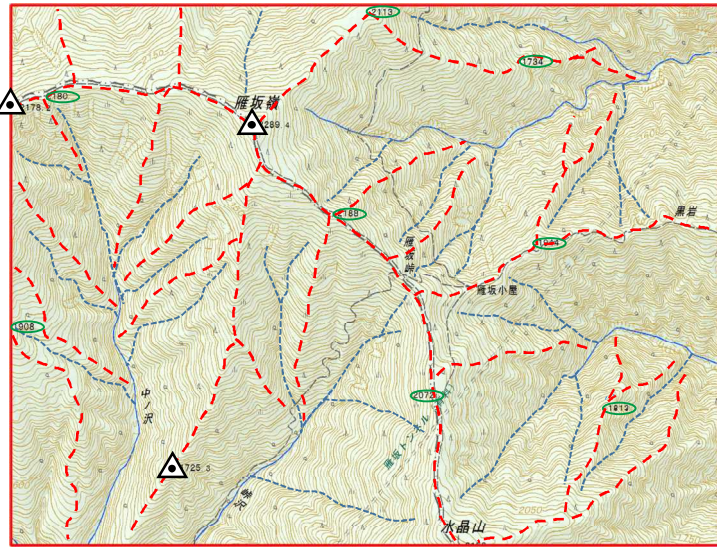


河川的作用による地形など

基礎からわかる2万5千分1地形図(4)

○等高線から地形を読む「尾根^{おね}」と「谷^{たに}」

- ・山頂（ピーク）には、三角点が設置されていたり標高点が取得されており、山頂が尾根の出発点や分岐点になっていることが多いです。
- ・等高線が山頂から外側に膨らんでいるのが尾根になります。
- ・谷には河川の記号が入っている場合もあります。
- ・尾根の等高線は谷の等高線よりも丸みを帯びています。
- ・谷の等高線は鋭角に食い込んでいることが多いです。



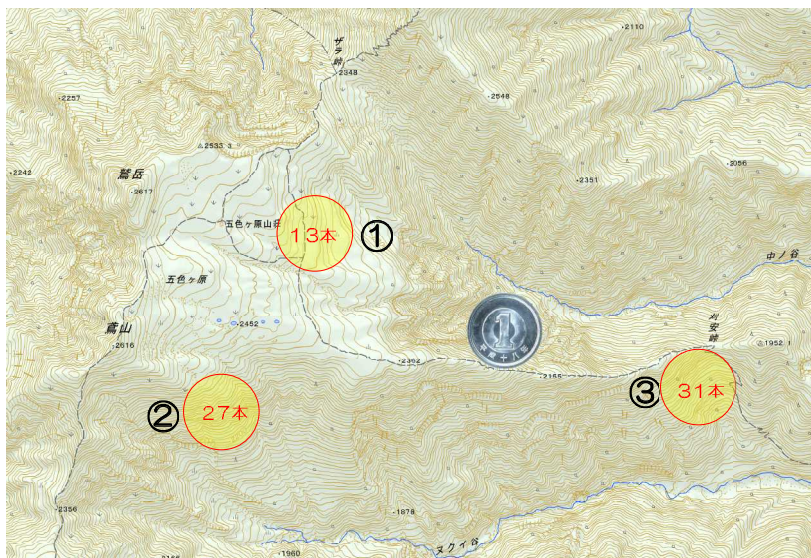
△ 三角点 ○ 標高点 - - - 尾根 - - - 谷 — 河川



(空中写真)

○等高線から傾斜を読む

直径2cmの円（一円玉の大きさ）の中に入る等高線の本数で、その地点の平均傾斜のおおよその角度を知ることができます。
(ただし、角度と比高は正比例でないため40本以内で利用してください)



※2万5千分1地形図と1円玉を2倍に拡大しています。



いろいろある地図記号



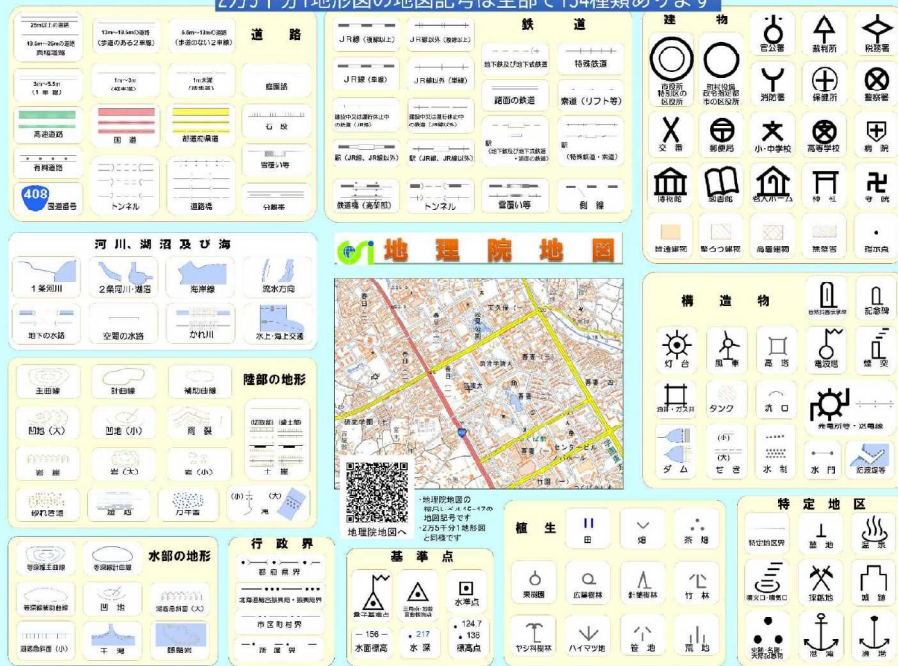
学校で「地図記号」を学んだよ。
もっと、色々なことを知りたいな。

地図記号を使用すると、町の様子が
分かりやすくなるんだ。
地図記号は、時代の変化と共に見直
され、形を変えたり、新しく追加さ
れたり、削除されたりするんだよ。



国土を描く「地図記号」

2万5千分1地形図の地図記号は全部で134種類あります



文字だけの地図より、
地図記号を使用すると
地図が見やすくなるね。



老人ホームと風車の地図記号
は、平成18年（2006年）
に全国の小・中学生から募集
したデザインを基に作られた
んだよ。

地図記号の移り変わり

【時代と共に移り変わる地図記号】

名称	明治	大正	昭和	平成
水凧点	16年 ボコボコ→	18年 →	24年 →	42年 →
郵便局	16年 →	18年 →	24年 →	42年 →
学校	16年 →	18年 →	24年 →	42年 →
病院	16年 →	18年 →	24年 →	42年 →
高塔	16年 →	18年 →	24年 →	42年 →
煙突	16年 →	18年 →	24年 →	42年 →
灯台	16年 →	18年 →	24年 →	42年 →
山	16年 →	18年 →	24年 →	42年 →
煙	16年 →	18年 →	24年 →	42年 →
竹林	16年 →	18年 →	24年 →	42年 →
温泉	16年 →	18年 →	24年 →	42年 →
噴火口	16年 →	18年 →	24年 →	42年 →

地図の縮尺が1/25,000で、明治の頃から何回も変わりました。
上の表は、1/25,000地形図の主な記号の移り変わりを示しています。

【2万5千分1地形図で使われなくなった地図記号】

 銀行 昭和30年図式でなくなった 由来：江戸時代の「金」の文字を記号化	 古戦場 昭和35年図式でなくなった 由来：交差させた日本刀の形を記号化	 工場 平成25年図式でなくなった 由来：機械の歯車を記号化	 採石地 平成25年図式でなくなった 由来：石切り場の景観とがけ（土）の組み合わせを記号化
 都道府県庁 昭和40年図式でなくなった ※20万1/25,000地形図などでは いまだ使われている	 牧場 昭和40年図式でなくなった 由来：くつわ（牛糞を付けるための器）の 口にかませる（馬具）の形を記号化	 気象台 平成25年図式でなくなった 由来：気象観測に使う風速計を 記号化	 森林管理署 平成25年図式でなくなった 由来：「木」の文字を記号化
 電報・電話局 昭和61年図式でなくなった 由来：NTTの前身の日本電信電話公社の マーク（レシーバー）の形を記号化	 塩田 昭和61年図式でなくなった	 桑畑 平成25年図式でなくなった 由来：桑の木の形を記号化	 その他の樹木畑 平成25年図式でなくなった 由来：樹木畑を土から見たときの 形を記号化

【外国人向け地図記号】（※国土地理院の地図には使用されていません。）



小学3・4年生の学習におすすめ！

過去の災害で学ぶ「自然災害伝承碑」

～過去から未来へつなぐ災害教訓のバトン～

「自然災害伝承碑」とは？

- ◆過去に発生した地震、津波、洪水、土砂災害、高潮、火山災害等の**自然災害に関する事柄**（災害の様相や被害の状況など）が**記載**されている**石碑やモニュメント**です。
- ◆自然災害伝承碑の情報を**地理院地図**等に**掲載**することにより、過去の**自然災害の教訓**を**地域の方々に適切にお伝え**するとともに、教訓を踏まえた**的確な防災行動**による**被害の軽減**を目指します。

取組のきっかけ

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）

広島県坂町
小屋浦地区



提供：大阪府警察

明治40年（1907）7月に発生した土砂災害の被災状況を伝える石碑が建立されていたが、**伝承内容が十分には活かされず**



国土地理院で情報の整備・掲載を開始



地図記号
(地理院地図表示アイコン)



地理院地図
(自然災害伝承碑を表示)

地理院地図では、地図上のアイコンをクリックすることで、自然災害伝承碑の写真や災害名が見られます。さらに写真をクリックすると、災害種別、伝承内容などについても確認できます。

水害碑	
概要	
碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月15日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1910
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦 四丁目
伝承内容	明治40年(1907)7月15日、数日連続した豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。 関連外部サイトへのリンク集

ID:34309-002



掲載分布図



自然災害伝承碑の活用事例

自然災害伝承碑が過去の自然災害を学ぶきっかけとなり、実際に過去の教訓が地域で活用されるよう、**当院ホームページ**で**活用事例**を紹介しています。

学校における学習教材



地理・歴史や小学校社会科等の教材に利用することで、身近な災害履歴を学ぶ

地域探訪の目標物



歩こう会などの探訪コースの目標物とすることで、参加者が地域を歩きながら、過去の災害情報に触れる機会を創出

「自然災害伝承碑の地図化を通じた災害教訓周知・普及」の取組

自然災害伝承碑の教訓伝承の重要性

災害教訓から学ぶ

岩手県宮古市重茂姉吉地区には、明治29年（1896）の明治三陸地震、昭和8年（1933）の昭和三陸地震の被害を伝える石碑が建立されています。

石碑には「此处（ここ）より下に家を建てるな」との教訓があり、東日本大震災では**碑の教訓を守ったことで、家屋に被害がありませんでした。**



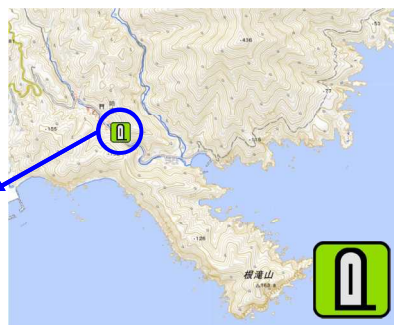
大津浪記念碑

取組目的

国土地理院では、2019年度から災害教訓の伝承に関する地図・測量分野からの貢献として、過去の自然災害に関する石碑やモニュメントなど「自然災害伝承碑」を地形図等に掲載しています。これにより、過去の自然災害の教訓を地域の方々に適切にお伝えするとともに、**教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減**を目指します。

Web「地理院地図」における表示イメージ

2019年6月19日から
順次提供開始



2万5千分1地形図における表示イメージ

2019年9月から
順次提供開始



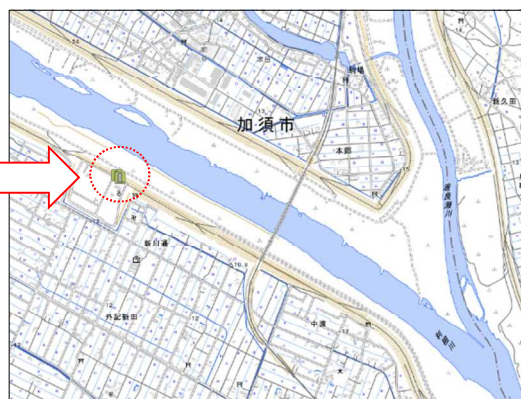
「自然災害伝承碑」とは？

- ◆ 過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄（災害の様相や被害の状況など）が記載されている石碑やモニュメント。
- ◆ これら自然災害伝承碑は、当時の被災状況を伝えると同時に、当時の被災場所に建てられていることが多く、それらを地図を通して伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つものと期待されます。



自然災害伝承碑

（堤防決壊跡碑：埼玉県加須市）



地図記号「自然災害伝承碑」を地図に掲載し、かつて自然災害が発生した地域であることを示します。